阿部彩『子供の貧困—日本の不公平を考える』岩波新書 2008年

第1章 貧困世帯に育つということ

用語解説

1 なぜ貧困であることは問題なのか p 2

○学力到達度調査 (PISA 調査)

OECD が進めている PISA (Programmed for International Student Assessment) と呼ばれる国際的な学習到達度に関する調査 PISA 調査では 15 歳児を対象に読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの三分野について、3年ごとに調査を実施している

○国際標準職業分類 p 5

国連機関によって決められている国際標準分類の一つで、職業の分類。国際的な比較に用いられる。

2 貧困の連鎖 p 18

○SSM 調査(The national survey of Social Stratification and social Mobility) p 25

社会階層と社会移動の研究を目的とする社会調査。日本では 1955 年に日本社会学会などによって第 1 回調査が行なわれ、以降 10 年ごとに実施される。無作為に抽出された全国の 20 歳以上 70 歳未満の人を対象に、調査票を用いて、職業、職歴、収入、学歴、家族、社会に関する意見などについて聞き取り調査を行なう。

3 貧困世帯で育つということ p 28

○文化的再生産論 p 32

文化資本の再生産のことをいう。文化資本を教育システムが評価することによって、支配階級のもつ文化が、学校システムにおいて収益をあげ、支配階級の子どもが高い学歴を得て、高い階級へと再生産されることを明らかにしている。

○所得効果 p 34

財・サービスの価格の変動が、消費者の実質的な所得を通じて消費量に与える効果のこと。